

機密

歐三機密第二六三號

昭和十四年九月六日

外務省歐亞局長 西 春彦

臺灣總督官房外務部長 千葉 葵 一 殿

新南群島帝國領土編入ニ關スル件

本件ニ對スル米國政府抗議（六月十二日附歐三機密合第二九九六號參照）ニ關聯スル我方措置振ニ付テハ先般關係省會議ニ於テ對米回答ハ現下機微ナル日米關係ニ鑑ミ當分之ヲ見合スト共ニ其ノ間我方ニ於テ同群島ノ實效的占有ニ必要ナル措置ノ充實方可然トノコトニ意見一致セリ

貴總督府ニ於テ新南群島ニ對シ既ニ實施セラレタル事項及將來實施セララルヘキ事項ニ關シ七月十四日附貴信官外第三九〇號及同月

（日本標準規格B5）

外務省

2

二十六日附貴信外發第一四八六號ヲ以テ御通報相成リタル所ニ依レハ現在迄同群島ニ實施セル我方施設警察官及氣象觀測ノ爲ノ技師各々三名ノ派遣以外ハ其ノ殆ト全部カ私的營造物ナル處本來先占ノ條件ノ一タル實效的占有ハ公的權力ノ樹立及維持ニ存スルヲ以テ今後邦人ノ活動及其ノ爲ノ各種施設ヲ充實セシムル外尠クトモ（一）長島ヲ中心トシ必要ニ應シテ何時ニテモ各地ニ權力ヲ及ホシ得ルノ用意ト設備（二）群島内ノ定期的巡邏（三）各島嶼ニ帝國領土タルコトヲ示スヘキ標識ノ建設等ノ措置ハ成ルヘク速ニ實施方御考慮相成度右ハ前記會議出席ノ拓務省係官ニ對シ貴府へ通報方依頼濟ナルモ爲念此段申進ス

（日本標準規格B5）

外務省

分類 電 信 案 外 務 省	好転に事レハ之鑑ミ有申領事編 改判用紙以来佛ノ對日態度漸次 貴部第一三六号ニ對シ	電送第 24911 號 昭和 14 年 9 月 14 日 午後 9 時 0 分 發	主管 歐亞局長 主任 第三課長	電信課長 發電係	昭 和 14 年 九 月 14 日 起 草
		件 名 新南群島在任佛人及 安南人ノ処置ニ對シ	宛 台無總督府 千葉外務部長	發 阿部大臣	記 録 件 名

通商局長
 第六課長
 電信課長
 大臣
 次官
 東亞
 歐亞
 米洲
 通商
 條約
 情報
 文書
 調查
 人典
 儀典
 文書
 會計
 會計
 祕書
 官

第一三六號
 阿部外務大臣
 千葉臺灣外務部長

昭 和 14 年 九 月 14 日 後 發
 本 省 臺 北 九 月 十 四 日 夜 着
 歐

新南群島在任佛國人及安南人ニ對シテハ退去方再三督促セルモ何等
 實效ナキニ付高雄州ニ於テハ三月一日附内務省令第九號第十八條ニ
 依リ實力ヲ以テ退去セシメタキ意嚮ノ趣ナルモ御差支ナキヤ尤モ同
 島ニ駐在スル警察官ハ現在三名ニ過キササルニ付警務局ヨリ臺北在勤
 海軍武官ニ打合セタル處右實力行使ニハ海軍側ニテ援助ヲ與ヘ得ヘ
 シトノコトナリシ趣ナリ何分ノ儀折返シ至急御回電ヲ請フ(了)

外 務 省

(日本標準規格B5)

0449

今直ニ群島在住佛人及安南人ヲ退
 去セシムル措置ヲ採ルハ差控ヘ度ニ付
 不取敢彼等ニ對シ帝國ノ權力及法
 令ニ服スヘキモノナルコトヲ示達シ置キ
 爾後之ニ服セサルモノアラハ適老ノ処分
 ヲナスコトヲセリ度（陸海ト協議ス）

電信案 外務省

(原議用紙乙)

歐三普通第五六號

以醫輪啓上致候陳者新南群島ニ於ケル帝國出先官憲ヨリノ電報ニ依
 レハ本月十一日一佛國汽船同群島長島ニ來航シ安南人十七名ヲ無斷
 上陸セシメ又同船長島ヨリ東北三百米ノ地點ニ於テ坐礁セルニ依リ
 右救助ノ爲十二日佛國軍艦一隻同島ニ來航シ坐礁船ニ近付キタル後
 長島ヨリ約一萬米ノ地點ニ投錨シ内火艇二隻ヲ下シテ離礁作業ニ從
 事セシムルト共ニ附近ノ海底測量ヲモ行ヒタル趣ニ有之候
 抑々新南群島ハ本年三月三十一日ヲ以テ帝國領土ニ編入セラレタル
 モノナルニ付佛國船カ帝國官憲ノ許可無クシテ安南人ヲ上陸セシム
 ルカ如キハ帝國政府ノ容認シ得サル所ニシテ爾後佛國人ニ依リ斯ル
 行爲ノ繰返サルルコト無キ様佛國政府ニ於テ適當ノ措置ヲ講セラレ

海軍トシテ何等異議ナシ
 從テ長島ヨリ今世ニ連絡ノ場
 合ニ當ルニモ報中ニ台橋總督府ニ林
 下リ後旨ノ派
 考ヲテレ又台世ヨリ請弗長島ニ通信ノ場
 合ニ從テ留府
 ヲリ更ニ通信機(有港司人下宛)ニ報
 報方依來セリ
 及テ何ノ場合ニモ一應海軍式ニ直
 ト連絡セリ
 可也トノ事弗
 報ナリ

公 信 案

外 務 省

ヨリ貸出ノモノニテハ海軍トシテハ
 將來今世ハ何カ用ヲ設置
 スル又ハ台橋總督府ニ直
 ト連絡セリ
 スル
 報ナリ

以上ハ海軍ノ上
 新島ニテハ三國航艦入港等ノ
 事ヲ以テ
 可及的ニ
 台橋總督府
 以テ計
 相成
 此段ハ依來申述ス

台橋總督府
 海軍省

公 信 案

外 務 省

(日本標準規格 B5)

寫送先

14.10.2-1

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人典 儀典 文書 會計 秘書官

大臣 次官

電信課長

加藤

昭和14 四四六〇一 暗

臺北 十二月十九日後發 本省 十九日夜着

歐

野村外務大臣

第二〇八號

歐亞局第三課長へ

新南群島附近ニ來航スル外國艦船ノ取扱振りニ關シ小官上京中外務次官ヨリ森岡總務長官宛通報相成リタル様承知シ歸臺シタル處未着ナルニ付御取調へノ上結果御回電請フ(了)

南支那海軍艦隊司令部

外務省

(分類 14.10.2-1)

電信案	本日送送セリ	右海ヨリ	第 一 八 九 號	電送第 34549 號	主管
				件名	宛
外務省				昭和十四年十二月二十一日午後七時五分發	電信課長
				記録件名	發
					加藤
					發電係
					主任
					第三課長
					昭和十四年十二月三十一日起草

(日本標準規格B5)

帝國ノ措置ニ對シ抗議シ又英、米モ異議ヲ申越シ居ルヲ以テ是等諸國ニ對スル關係ニ於テハ新南群島ノ歸屬必ズシモ確立セリトハ稱シ難ク（其ノ確立ハ將來相當ノ時日ヲ要スベシ）從ツテ是等第三國ノ商船又ハ軍艦ニシテ同群島ニ入港シ又ハ人員ヲ上陸セシメントスル場合アリ得ベキ處右ノ場合ニハ向後左記趣旨ニ依リ措置セララルコトト致度

一 同群島ニ入港セントスル船艦ノ船長又ハ艦長若シクハ右ニ代ル實

發信用	執務用		
主信	1	2	3
附	甲		
	乙		
	丙		
	丁		
備考	441.2-1-1		



歐亞局
第二課長
條約局
第一課長

公文書案	文書課發送	昭和三十四年四月廿壹日發送	淨書
主	歐亞局長	任主	正校 (原稿)
管	三機密	昭和三十四年十一月廿八日起草	(淨書)
信	台灣總督府	昭和三十四年三月廿五日附	
受	森岡總務長官	附屬	
件	新南群島ニ外國船艦入港ノ場合ニ對スル措置振りニ關スル件	名件録記	
名	新南群島ハ昭和十四年三月三十日附ヲ以テ台灣高雄市ニ編入セラレ帝國領土ノ一部ヲ構成スルコトナリタルヲ以テ我國ニ關スル限り其ノ國內法上ノ手續完了シ且行政關係確立セル次第ナルモ佛國ハ右	名人信發	谷 外務次官

文書課長

(13.6 1)

21 149

任者ニ對シテ同群島ハ昭和十四年三月三十日附ヲ以テ帝國ノ領土ニ編入セラレタルニ未ダ通商貿易ノ爲メニ公開セラレ居ラザルヲ以テ海難其他不可抗力ニ依リ船体並ニ乗組員ノ生命ニ危険アル場合ノ外第三國ノ船艦ハ一般ニ入港ヲ禁止セラレ居レリ從ツテ軍艦以外ノ船舶ニシテ同島ニ入港セント欲スルモノハ總テ同群島ヲ管轄スル台灣總督ノ許可ヲ得ルヲ要シ又軍艦ノ場合ニアリテハ外交上ノ手續ヲ經テ帝國政府ノ正式許可ヲ得ルヲ要スル旨說示セラレ

公 信 案

外 務 省

度
 一前記船艦ガ人員ヲ上陸セシメントスル場合ニ於テモ亦同ジ
 二前記說示ニモ拘ラズ敢テ入港シ又人員ヲ上陸セシメタル場合ニ
 際シテハ實力ヲ以テ阻止スルコト無ク其ノ責任者ニ對シ我方ノ禁止ヲ無視シテ爲シタル行爲ヨリ生ズル責任ハ當該責任者又ハ責任國ニ於テ之ヲ負ハザルベカラザル旨說示セラルルト共ニ當省ニ對シ其ノ情況ヲ報告シ取ルベキ措置ニ關シ御照會相成度、右報告及

公 信 案

外 務 省

無カシテ船艦ハ別トシ有カシテ船艦ハ

電報子イ

秘

第三課長

昭和十五年二月十二日

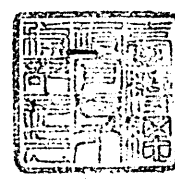
總督官房外務部長 千葉 榮

外務省歐亞局長 井上 庚二 郎 殿

外發第四〇一號

新南郡島情報 二編スル件

本件ニ關シ在高雄拓洋水産株式会社與儀取締役ヨリ本府高橋水産課
長宛別紙寫ノ通り通報越シタルニ付御參考迄此段轉報申進ス



歐 15.2.19 三

臺灣總督府

日本標準規格 B列 5番 182x257

寫

秘

昭和十五年二月七日

高雄市鹽 町三丁目一番地

拓洋水産株式会社

專務 締役 與 儀 喜 宣

水産課長 高橋 尙 秀 殿

長島ヨリノ情報ノ件

拜啓當社、長島事業主任票本海軍少佐ヨリノ日誌中記抜萃供高覽
候 敬 具

記

一月四日 本年ニ入り初メテ島ヲ巡ル、布丘ノアル處之ヲ越ユル
波浪ハ其上方林邊ノ砂丘ヲ洗去リ灣入セルヲ 窺ル小
路 部建立ノ水準基石モ少シ流下セリヤノ疑アルモ想像ニ

臺灣總督府

日本標準規格 B列 5番 182x257

過ギズ

經緯度標柱ノ根元モ一方洗ハレタリ

一月十五日

午後七時半佛船「メーリン」號(一、五四三噸)「サ

イゴン」ヨリ直航入港ス、南興平船ニテ荷物ヲ棧橋ニ

繋ギ翌朝汽船ニ行キ積載セリ

一月十六日

ビエローノ妻君外五名來島セル由ナリ

主ナル揚貨ハ^米、^炭、乾パン等ナリ

船長ハ座礁船ノ寫眞ヲ撮リマネージャーニ報告シソノ

後同船ヲ處分スル由ナリ

交替者醫師家族共五名、無電機士一名^井名外三名乘

船午前十時「サイゴン」ニ向ケ出港セリ

一月廿一日

四時十五分朝日丸投錨ス、櫻井氏外一名及探礦員及其

家族七十二名便乗シ上陸セリ

臺灣總督府

日本標準規格 B列 5番 182x257

一月廿二日

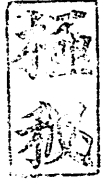
南興ニテハ無電室側ノ隣 鑛試堀ヲ爲ス、住宅地ハ堀

ヲザル約束ヲ聞クガ止メル權限モナシ

以上

臺灣總督府

日本標準規格 B列 5番 182x257



陸軍省 第三課

坐礁佛國軍艦引揚ニ關スル在京佛國大使
抗議文假譯

第九號

以書翰啓上致候陳者客年九月二十八日附貴翰ヲ以テ閣下ノ前任者ハ
本使宛長島領海内ニ坐礁セル佛蘭西汽船ノ利益ノ爲佛蘭西軍艦ニ依
リ同月十一日爲サレタル離礁作業ニ付申述フル所有リタル處本使ハ
閣下ニ對シ右長島ノ屬スル「スプラトレイ」群島ハ一九三三年四月
佛蘭西政府ノ領有セルモノニシテ右領有ノ通告ハ同年七月二十六日
附共和國官報ヲ以テ發表セルヲ以テ其ノ主權ハ同群島ニ確立セルモ
ノト信スルモノニシテ且ツ右有效的領有確定六箇年後ニ爲サレタル
日本政府ノ決定ハ其ノ權利ニ影響ヲ及ホシ得ルモノトハ認メ難キ旨
御通告申上クルノ光榮ヲ有シ候

尙本使ハ此機會ニ於テ一九三九年四月五日附本使發閣下ノ前任者宛
書翰ヲ御參照アリ度ク右書狀ニ於テ共和國政府ハ既ニ其ノ見解ヲ表

(日本標準規格 B5)

外務省

明セルモノナルカ今般再ニ「スプラトレイ」群島ニ屬スル島嶼ヘノ
接近ハ貴國官憲ニ對スル通告況ンヤ右官憲ニ依ル豫備的許可ヲ取付
クルノ要無ク總テノ佛蘭西國軍艦若クハ船舶ニ對シ一應自由ニ開放
セラレ居リト認ム可キ趣閣下ニ對シ御通告申上ク可キ旨本使ニ對シ
訓令越シ候
右申進旁々茲ニ重ネテ閣下ニ向ツテ敬意ヲ表シ候
敬具

千九百四十年二月十四日

駐日佛國大使「シャルル・アルセーヌ・アンリー」

有田外務大臣閣下

(日本標準規格 B5)

外務省

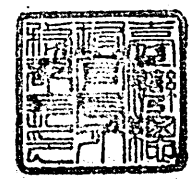
秘

外務省

第三課長

昭和十五年二月十六日

臺灣總督官房外務部長 千葉 泰



外務省歐亞局長 井上 庚二 郎 殿

外發第四四八號

新南群島情報通報ノ件

南洋興發株式會社新南群島主任

高橋 源 壽

右ノ者ハ客年末新南群島ヨリ歸臺セル處同地在住佛人ト西貢海軍要港部トノ間ニハ相當密接ナル聯絡アルモノノ如ク左記ノ通り語リタルニ付御參考迄此段通報申進ス

記

新南群島長島ニ居住スルビー、ホーロー以下安南人二十數名ハ西貢

臺灣總督官房外務部

佛人食料品店ヨリ新漁場調査ノ爲メ派遣セラレタリト稱スルモ其背後ニハ佛本國政府ノ承諾ヲ受ケタル西貢海軍要港部ノ力カ多大ニ働キツツアルコトカ左ノ諸點ニ依リ明カニ察知スルコトカ出來ル
一、現在長島在住佛人カ使用シツツアル無電ハ食料品會社カビー、ボ
ーローヲ派遣シ本格的ニ長島ニ乗出ス以前昭和八年頃既ニ西貢海軍要港部ニテ無電建設ニ着手シ完成後ハ安南人無電技師陳某ヲ駐屯セシメタモノテアル

二、毎日三回ノ氣象通報並ニ新南群島近海一帯ノ狀況ヲ逐一詳細ニ西貢要港部ニ通報シツツアル模様ナリ

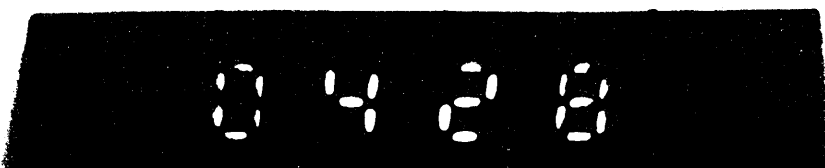
日本側無電拓洋水産社員江頭無電技師ノ言動ニ依レハ佛人氣象通報時間ハ

午前 十時三十分
午後 二時三十分
十時三十分

タイプライター用紙

CH 本標準規格 B. 4)

歐 15.2.19



以上カ通報時間ナルカ其間四日ニ互リ盜擄スルニ氣象通報後長交ノ無電ヲ發シ居ルモ佛語ナルヲ以テ充分理解スル事ハ出來ナイカ
 新南群島ニ於ケル日本ノ狀況ハ常ニ通信サレ居リ尙波長ハ西貢ニ合シ海軍要港部及長島佛人間ノ無電通信ヲ盜擄スルニ西貢側ヨリハ最近歐洲情勢ヲ盛ニ通報シテ居タカ其後ハ何事カ頻リニ要港部ト打合セテシツツアリト
 三、西貢食料品會社ノ長島進出ハ西貢海軍要港部カ極力誘導シツツアルコトハ諸種ノ點ヨリ察知スル事カ出來ルカ現在既ニ會社ノ長島投資ハ約十五萬圓位ト推測サレルカ建設資材其他大半ハ要港部側ヨリ供給セシモノト言ハル
 四、長島在任佛人ビー、ボーローハ會社ノ契約ハ十四年四月迄ニシテ歸國ヲ希望スルモ政府ヨリノ命令ト交代者カ來島セサルヲ以テ歸還スルコトカ出來ナイト嘆シタコトアリ尙使用安南人ノ任免モ會社ノ一存ニテハ不能ナル旨ヲ語レリ

臺灣總督官房外務部

新南群島長島ニ坐礁セル佛國籍汽船アスニ一號積載貨物ハ過般來南洋興發株式會社カ買收スヘク外務省ヲ通シ佛本國汽船會社ニ交渉中ナリシカ本國汽船會社ニ於テハアスニ一號遭難ノ實情ヲ詳細認識セス未タアスニ一號ハ離礁可能ナル旨信シ居リ之ニ應セス買收交渉モ進捗セサル狀態ナリシカ今回西貢代理店ヨリアスニ一號遭難後ノ實情ニ付キ詳細佛國汽船會社ニ報告シアスニ一號ハ絶對離礁作業困難ニシテ積載貨物ハ日本側ニ賣却スルカ有利ナル旨申送り引續キ交渉中ナレハ近ク買收交渉成立スル見込ナリ云々

タイプライター用紙

(日本標準規格B4)

電信案

外務省

取調、回報アリ度、出座船ハ近ク入ル由、又、方
方、併セテ、回報アリシ

(原議用紙乙)

(分類)

電信案

外務省

電送第	5379 號	主管	歐亞局長
昭和十一年二月二十日	時十分發	主任	第三課長
件名	宛	發	記録件名
新南群島之南之件	台海澳督官房 外務部長	有田大臣	所政西島桂
二月十日外務第四一號報告ニ依リ一月十五日佛船 入港ノ際、南興團平船ニテ台海揚センタルハ其ノ世斷 入港ヲ承認スルコト實ヲ望ムル想アリ、又、當時ノ事情			

(日本標準規格 B5)

電信課長

發電係

昭和十一年二月二十日起草

23

62

電信寫

記

相

山

昭和15 五五九八 略 臺北 三月二日午後
 本省 二日夜着
 有田外務大臣
 第四五號 (至急)
 往電第四四號ニ關シ
 上京中ノ千葉外務部長ニ御通報相成度シ(了)

千葉臺灣外務部長

殿

電信寫

記

山

秘

昭和15 五五八〇 暗 臺北 三月二日午後
 本省 二日午後着
 有田外務大臣
 第四四號 (至急)
 昨一日午前十一時二十二分佛國軍艦「マリイヌ」號新南群島ニ入
 港兵員ヲ陸揚シツツアル旨電報アリタルヲ以テ直ニ海軍側ト聯絡
 馬公要港部ニ手配セリ不取敢(了)

千葉臺灣外務部長

殿

秘

一五三二

軍務局長

二遣支艦隊參謀長

機密第六〇番電

佛軍艦 *Marne* 新南群島ニ入港兵員ヲ揚陸セル件ニ關シ勝力ヲ現地ニ派シ
左ノ如ク處置セシムルコトニ取計ハレ宜敷キヤ

左記

佛艦長ニ對シ同群島ハ昨年三月三十日附我が領土ニ編入セラレ開港場ニ
非ルヲ以テ入港竝ニ兵員ノ^揚陸ハ外交上ノ手續ヲ經テ帝國政府ノ許可ヲ得
ルヲ要スル旨文書ヲ以テ正式ニ申入レ先方ノ行動ヲ容認シ得ザルコトヲ
明ラカニ口頭ニテ附言シタル後肯ゼザル場合ハ更ニ文書ヲ以テ我が許
可ヲ得ズシテ爲シタル佛軍艦ノ今次ノ行爲ヨリ生ズル責任ハ佛艦長ニ於
テ之ヲ負ハザルベカラザル旨說示シ後命ヲ待ツト共ニ佛艦トノ交渉先方
ノ行爲竝ニ揚陸兵員ノ武裝其ノ他ノ行爲等詳細報告ノコト

海軍

(本田也)

秘

一五三一 一七一五 東通受 (一一四) 特二二B

馬要參謀長

軍務局長・軍令部一、三部長

二遣支艦隊參謀長

機密第六七二番電

一一一六三〇

新南群島情報

三月一日一一一二佛軍艦 *Marne* 突如同島着兵員ヲ揚陸シツツアリ。

海軍

0433

秘

一五三三

軍務局長

二遣支艦隊參謀長

機密第九二番電

勝力機密第九五二番電ニ鑑ミ軍務一機密第一號（歐三機密合第六四〇九號ノ意ナリ）ノ件ニ付現地官憲等ニ注意スベキ必要アリト認メラルルモ本件ハ中央又ハ馬要ニテ然ルベク取計ハレ度。

（本田精）

海軍

秘

一五三三

勝力艦長
軍務局長

二遣支艦隊參謀長

機密第九八〇番電

佛艦 Marine ノ件ニ關シ左記調査報告アリ度

- 一、佛艦長ト我方トノ應酬狀況
- 二、佛艦乗員上陸時武裝ノ有無
- 三、佛艦入港ノ理由之ニ關スル判斷資料
- 四、其ノ他我方外交折衝上ノ參考ト認ムル事項。

（本田精）

海軍

秘

改三長

一五三二

着 軍務局長

發 馬要參謀長

新南群島情報

馬公要港部機密第六七二番電ニ依ル佛艦ハ士官一名（艦長ラシキモノ）兵五名督勵石油箱大ノ箱七個三尺立方程度ノ籠二個（食糧品及藥品ラシキモノ在中）ヲ陸揚後兵五名ハ歸還セリ。

（本田納）

海軍

秘

一五三三

發 第二遣支艦隊長官

發 勝力艦長

機密第九五一番電

佛國軍艦 Marnes 長島入港ニ關シ調査セル所左記ノ如シ
一、在住佛國人ノ言ニ依レバ彼等モ同艦ノ入港ヲ全然豫知セザリシガ入港ノ目的ハ藥劑書籍糧食等輸送旁々坐礁佛商船ノ情況調査ニアリタリト稱ス駐在警官陸揚品ヲ検査セル所少シモ右ニ相違ナキモノト認メラル
二、上陸セルハ艦長ノミニシテ約五時間後歸艦同日一八一五拔錨北西方ニ向ヘリ兵員ハ荷物海上輸送竝ニ陸揚ニ從事セルノミ何レモ武裝セズ
三、其ノ他異狀ナシ。

（本田納）

海軍

秘

一五三三

二遣支艦隊參謀長
軍務局長

勝力艦長

機密第九五二番電

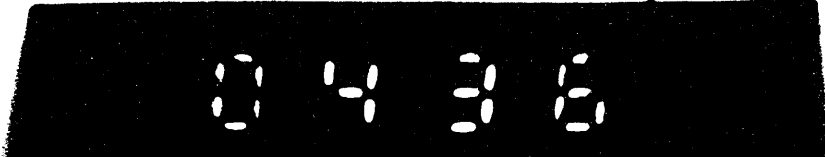
一、佛艦長ト我トノ間ニ何等應酬ナシ艦長ハ在住佛人ノ案内ニテ宿舍ニ入
レリ

二、三、勝力機密 九五一
番電ノ通

四、佛先占標識ノ存在在住佛人ノ態度（現在何等生業ニ従事セズ只佛領地
看守トシテ在住セルニ過ギザル狀況ナルコト邦人トノ間ハ私人トシテ
圓滿ナルモ官憲ニ對シテハ戸籍申告等ノ命ニ應ゼザルコト）竝ニ今回
佛國軍艦入港ノ目的ニ鑑ミルニ佛國人ニ對スル物資補給ノ道ヲ講ズル
カ或ハ之ヲ公認セシメ且佛先占標識ヲ撤去セシメザレバ佛艦船ノ入港
ハ今後モ繰返サルベシト認ム。

海軍

(木田樹)



秘

昭和15 五八二三 暗 臺北 三月五日發
本省 五日夜着

殿

有田外務大臣

千葉臺灣外務部長

第四七號

往電第四四號ニ關シ(佛國軍艦新南群島ニ入港ノ件)

其ノ後判明セル狀況左ノ通り

馬公要港部ニ於テハ同島近海航行中ノ軍艦勝力ヲ急遽同島ニ赴カシ
メタル處同艦カ三月二日到着セル際ハ既ニ佛艦ハ三月一日午後六時
十二分同島ヲ出港セル後ナリシヲ以テ狀況ヲ調査セルニ兵員ヲ湯鹽セ
ルニハアラスシテ食糧及藥品ヲ陸揚シタルノミナリ尙同艦艦長ハ暫
時同島ニ上陸附近ヲ散策セル由ナルモ特ニ別條ヲ認メス佛艦ハ悉ラ

電信寫

クハ當方最近ノ狀況ヲ調査ノ爲來港セシモノナラント(了)

歐亞三課長殿

極秘

勝力機密第三二號ノ二〇

昭和十五年三月五日

勝力機長

第二遣支艦隊參謀長殿

左ノ件送付

佛艦「マルネ」新南群島長島入港ニ關スル調書

(別紙添)

台北在勤海軍武官ニ移牒済

(終)

柴

(花格)

海軍

勝力機密第三二號ノ二〇別紙

佛艦「マルネ」新南群島長島入港ニ關スル調書

一、「マルネ」及同艦乗員ノ行動

昭和十五年三月一日一二五入港、棧橋端ノ南方約千米ニ投錨直ニ在住佛人短艇ニテ同艦ヲ訪問ス、一二〇〇艦載「ランチ」ニ艦長及兵員五名乘艇貨物九個(箱七個、籠二個)ヲ積ミ棧橋ニ達着

艦長ハ佛人ノ案内ニテ邦人部落ヲ避ケ西側ヨリ海岸傳ヒニ佛人宅ニ入り兵員ハ貨物ヲ棧橋ニ揚ゲタル後直ニ歸艦ス一七三〇頃艦長歸艦一八一五「マルネ」出港北西方ニ向フ(後在住佛人ヨリ聞ク所ニ依レバ「サイゴン」ニ向ヘリト言フ)

二、陸揚貨物ノ内容

貨物陸揚後我が駐在警官之ヲ検査セルニ其ノ内容ハ藥劑、書籍竝ニ糧食ナリ

(花格)

海軍

三 入港ノ目的

在住佛人ノ言ニ依レバ之ヨリ先前項ノ物件輸送ノ佛商船「サイゴン」ヨリ本島ニ向ヘルモ荒天ノ爲途中ヨリ引返シ爾後其ノ儘トナレル處ヲルネ一ハ之等ノ輸送傍ラ長島ニ坐礁セル佛商船ノ狀況視察ノ爲來航セルモノニテ彼自ラモ全然豫知セザリキト言フ我ガ警官陸揚品検査ノ結果ニ徴スルモ右ニ相違無キモノト認メラル

四 我ガ官憲ノ處置

第二項記載ノ通陸揚品ヲ検査セルノミニテ艦長其ノ他乗員ト會見應酬ヲナシ居ラズ

五 意見

長島ニ於ケル左記ノ如キ現状ニ對シ適當ノ處置ヲ執ルニ非レバ今後モ佛艦船ノ入港ハ屢々繰返サルベク而シテ其ノ入港ニ際シ假令我ガ方ヨリ抗議スルモ彼等ニ取り來航ノ口實存在シ結局有耶無耶ニ終ルベシト認ム

(花崎博)

海軍

記

(一) 佛先占標識ヲ存置ノ儘放任セルコト

(二) 佛人(現在佛人夫妻及安南船人二十二名アリ)ノ在住ヲ默許セルコト、從ツテ彼等ハ生活必需品ヲ移入セザルベカラザルコト

(三) 在住佛人ハ何等生業ニ服シ居ラズ自ラ佛領地看守ノ爲居殘レリト稱スルコト又邦人トノ間ハ極メテ圓滿ニシテ私的ニハ警官ニ對シテモ融和セルモ官憲トシテノ警官ニ對シテハ戶籍申告等ノ命ニ應ゼザルコト

(四) 在住佛人ノ無電使用ヲ默許セルコト(我ガ無電故障ノ際彼ニ「サイゴン」經由ニテ通信ヲ依頼セシコトモアリト言フ)

(五) 我ガ官憲(現在高雄州、警部一名、巡查三名駐在ス)ハ外國艦船入港時ノ處置ニ關シ何等明確ナル指令ヲ受ケ居ラザルコト

(終)

海軍

(本田精)

致電度 右申進 本大臣ハ茲ニ宣示ス
閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候
敬具

公 信 案

外 務 省

注意ヲ喚起セザルヲ得サル治方ニ有之候

尚新南群島ニ於テ帝國官憲ヨリ報告ニ依リハ

本年一月十五日佛^{英國}亮船ハ又ニ其ノ許可ナシテ入港シテ

ル申出ハシテ又ニ三月一日貴國軍艦ハ突如同島

ニ付^{入港會糧等事ヲ陸揚ニ且艦長官島上陸シ}テ本方ヨリ佛^{英國}領内ニ

三^{ニ付}航路^{ニ付}未^{ニ付}宣^{ニ付}揚^{ニ付}陸^{ニ付}中^{ニ付}心^{ニ付}不^{ニ付}行^{ニ付}為

澤^{ニ付}互^{ニ付}ナル^{ニ付}、結果^{ニ付}生^{ニ付}ズトアル^{ニ付}ハキ事^{ニ付}恐^{ニ付}責^{ニ付}任^{ニ付}ハ佛^{英國}

政府ニ於テ負^{ニ付}ハル^{ニ付}ハキ事^{ニ付}、貴^{ニ付}方^{ニ付}使^{ニ付}ニ通^{ニ付}報

公 信 案

外 務 省

歐三普通第一四號

以書翰啓上致候陳者新南群島ニ於ケル安南人ノ無斷上陸及貴國軍艦ニ依ル貴國商船離礁作業ニ關スル客年九月二十八日附往翰ニ對シ客月十四日附貴翰ヲ以テ御回答越ノ趣聞悉致候前記往翰ヲ以テ指摘シ置キタル如ク新南群島ハ客年三月三十一日帝國領土ニ編入セラレ完全ニ帝國ノ主權ニ屬スルコトナリタルヲ以テ帝國官憲ノ許可ナクシテ佛本國人及安南人ヲ同島ニ上陸セシメ又ハ佛國艦船ヲ入港セシムルカ如キハ帝國政府ノ容認シ得サル所ナルニ付右重ネテ貴國政府ニ對シ注意ヲ喚起セサルヲ得サル次第ニ有之候

尙新南群島ニ於ケル帝國官憲ヨリノ報告ニ依レハ本年一月十五日貴

國商船ハ又々其ノ許可ナクシテ入港シタルノミナラス更ニ三月一日貴國軍艦ハ突如同島ニ入港食糧品等ヲ陸揚シ且ツ艦長ハ同島ニ上陸シタル趣ナリ本大臣ハ佛國側ノ右不法行爲ニ付嚴重抗議スルト共ニ斯ル行爲ノ繰返サルル結果生スルコトアルヘキ事態ノ責任ハ佛國政府ニ於テ負ハルヘキモノナル旨豫メ貴大使ニ通報致候
右申進旁本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

昭和十五年三月六日

外務大臣 有田 八郎

佛蘭西國特命全權大使

「シャルル・アルセーム・アンリー」 閣下

佛軍艦新南群島入港兵員揚陸ニ關シ
在京佛海軍武官ニ申入レノ件

貴國軍艦 *Marnes* ハ三月一日突如新南群島ニ來航兵員ヲ揚陸シアル旨報告ニ接セルガ同群島ハ昨年三月三十日附我領土ニ編入セラレ而モ開港場ニ非ザルヲ以テ入港竝ニ兵員ノ揚陸ハ外交上ノ手續ヲ經テ帝國政府ノ許可ヲ要スル次第ニシテ交戰國タル貴國軍艦ガ中立國タル帝國領土ニ無斷入港兵員揚陸ノ舉ニ出デラレタルハ帝國海軍ノ特ニ重視スル所ナリ、目下貴我兩國間ニハ國交調整ノ機運動キツツアル際貴方ニ於テ斯ノ如キ行動ヲ執ラルルハ了解ニ苦シム處ニシテ速ニ出港方要望スル次第ナリ

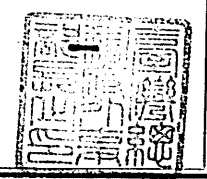
(終)

海軍



昭和十五年三月二十三日

臺灣總督府外事部長 千葉 素



外務省歐亞局第三課長 石澤 豊 殿

外一第一七五號

新南群島長島在住佛人ジヤン、ビユーロー動靜ニ關スル件

本件ニ關シ最近新南群島ヨリ歸臺セル本島警察職員ヨリ左記ノ通り通報アリタルニ付御參考迄此段通報申進ス

記

長島駐在佛人ジヤン、ビユーローハ西貢ノブツキン漁業會社ノ者ニシテ本島ニ居住スベキコトヲ佛國政府ヨリ命ゼラレタルモノナル旨仄メカシテ今迄屢々本群島一葉ガ日本領土トシテ宣言サレタル事ヲ

臺灣總督官房外務部

聞カザレ尙日本人ガ多數來島シテ事業ヲ營ミ居ル事ヲ目撃シテ居リ乍ラ「自分等ハ本群島ハ佛國ノ領土ナル旨ノ命ヲ受ケ居住シ居ル者ニシテ日本人ノ命ニ服從得ズ」ト稱シ居ルニ付二月二十二日更ニ本人ノ宅ニ到リ帝國ノ命ニ服從スベキ事ヲ示達シ尙飽迄拒絕スル時帝國政府ノ權力ニ依ル處分スベキ事ヲモ示達セルニ本人ハ從來ノ言ヲ繰返シ自分ハ日本ノ警察官ヨリ日本ノ命令ニ服從スベキ事ヲ要求サレタル旨ヲ電信ニテ西貢ノ佛國政府ニ通報シ自分ノ探ルベキ處置ヲ照會シタルニ未ダ何等ノ回答モナク自分ノ一存デ日本政府ノ命令ニ服從スル能ハザル旨答ヘタリ
如斯キ狀態ニシテ現地ニ於ケル交渉ノミニテハ命令ニ服從セザルヲ以テ強テ服從セシメントセバ相當ノ處分ヲ爲ス必要アリト思料ス

(日本標準規格 B. 4)

タイプライター用紙



歐亞局長

昭和十五年四月十一日

臺灣總督府外務部長代理 小野 田



外務省歐亞局長 井上 庚二 郎 殿

外一第三三九號ノ一

新南群島情報ニ關スル件

本年一月十五日新南群島ニ入港セル佛船「メーリン」號ノ荷揚狀況及坐礁船「アスニー」號ノ處分方法ニ關シ二月下旬電照アリタル處本件ニ關シ拓洋水産會社ノ提出セル當時ノ詳報左記ノ通りニ付此段回答申進ス

記

一月十五日佛蘭西船メーリン號新南群島入港時ニ於ケル詳細ナル事情

臺灣總督官房外務部

雲霧雨

昭和十五年一月十五日 月曜日

朝カラビエロール氏(在島佛人)ハ南洋興發事務所ニ往復頻ナルヲ見ル、明朝頃便船來ル豫定ノ由ナレバ荷物運搬ノ相談ナルベシ、午後七時半佛船メーリン號(一、五四三噸)サイゴンヨリ直航入港ス、南興會社ノ團平船(三〇噸)ニテ荷物ヲ積出シ棧橋ニ繋キ又團平船一隻ヲ佛人屋敷近クニ持チ行キ積込荷物ヲ積ミ六人ニテ綱ヲ引キ五人ニテ船ヲ押シビエロール氏自ラ勇敢ニ海中ニ在リテ指揮シ翌朝三時棧橋ニ到着シ直チニ曳船シテ汽船ニ行キ積載セリ、主ナル荷物左記ノ通り

記

彈藥(丸) 三〇〇箱

防水布

タイプライター用紙

(日本標準規格B.4)

一、アスニー號（坐礁船）ニ在リシ無電機 一箇
 一、其他箱物數十個ナリ
 彈藥ハ方一尺高サ四寸位ノモノニテ永ク倉庫ニ在リシト云フ

昭和十五年一月十六日 火曜日 曇、小驟雨

午前三時半棧橋ヲ離レテ汽船ニ曳航セルヲ以テ歸宿スビニロール氏ノ妻君外五名交代者トシテ來島セル由ナリ
 六時起床シテ陸揚荷物ヲ棧橋ニ見ニ行ク主ナルモノ
 一、米 一、燭 一、乾パン 一、醬油 一、罐詰
 一、野菜 一、豚三疋 一、鶏二籠 一、アヒル一籠
 一、石油 一、煉炭 一、外箱詰
 メーリン號ハ本朝出港スベキニ付キ忙シカリシ由ナリ
 船長ト醫師トカニ紹介セラル坐礁船ヲ寫眞ニ撮リ「マネーチャール」ニ報告シ其ノ後此船（アスニー號）ヲ處分スル由ナリ

臺灣總督官房外務部

交代者醫師家族共五名、無電機機士一名外三名乗船午前十一時十五分サイゴンニ向ケ出港セリ

口坐礁佛蘭西船ノ船種、船ノ大サ、坐礁ノ位置及附近ノ地勢、海況並ニ之カ處置方ニ關スル所見

船名	アスニー號
噸數	(總) 二八二五噸 (登簿) 一七三〇噸
船ノ長サ	三三〇呎
巾	四三呎
深	四三呎五吋
船委	寫眞参照
建造	西歷一九二九年
船籍港	マルセール港
坐ノ位置	長島袖礁ノ北端
附近ノ海況	十月ヨリ三月末ニ至ル間ハ北東ノ季節風相當強力ナ

タイプライター用紙

(日本標準規格 B. 4)



ルモ其他ハ平穩ナリ

情 置 不 明

況 本船ノ坐礁セシハ昨年九月上旬ニシテ其ノ直後サイ
ゴン港ヨリ救助船來航離礁ニ努力中ノ處十月上旬頃
ニ至リ最後部船艙ノ積載貨物ノカイパイトヨリ發火
シ數日間ニ涉リ燃へ遂ニ後部ノ外船艙ニモ延燒シ夫
レカ爲後橋ハ倒レ外板ニ龜裂ヲ生ジ其後北東季節風
浪ノタメ後部船體ハ倒サレ現在ニテハ見ルモ悲惨ノ
状態トナレリ、然シ前部船艙内ノ貨物ハ依然トシテ
積載ノ儘ナル模様ナリ

臺灣總督官房外務部

(日本標準規格 B. 4)

タイプライター用紙

極秘

第三課長

水上機基地トシテノ新南群島

歐亞連絡航空路開設ノ第一段階タル東京盤谷間定期飛行ニハ佛領印度支那(上空)通過ニ對スル佛國ノ許可ヲ要スルモ未ダ佛國側ニ於テ我カ主張ニ應ゼズ依ツテ一部強硬論者間ニハ臺灣或ハ廣東ヨリ佛印ヲ避ケ公海ヲ迂廻シ盤谷ニ入ル航空路ヲ採ル可シトノ意見モ行ハレ居ルモ現在ノ航空機ニアリテハ搭載量ノ關係上甚ク不經濟ナルノミナラズ尙又安全性ニモ缺クル點アリ商業航空ノ正道ニ非ザルニ依リ之ガ實施ニ至ラズ今日ニ及ベリ。

更ニ對蘭領印度ヘノ定期航空路開設ハ戰時國民經濟並ニ戰時貿易對策上焦眉ノ急ナルハ論ヲ俟タズ且又最近和蘭側ニ於テモ本邦蘭印間定期航空路開拓ノ氣運アルニ不拘臺灣・蘭印間ハ三千數百軒ヲ距テ途中給油地ヲ必要トスルモフイリツピンヘノ他國機(英、蘭、日等)ノ乘入ハ合衆國政府ニ於テ之ヲ許サザル方針ナリト聞ク。

然處本年三月三十日附ヲ以テ臺灣高雄市ニ編入セラレタル新南群島ハ高

雄市ヨリ約千三百軒、盤谷ヨリ約千五百軒、蘭領バタビヤヨリ約千九百軒ノ位置ニアリ本群島ヲ途中着水場トシテ使用スルトキハ本邦盤谷間並ニ本邦バタビヤ間定期航空路開設ハ技術的ニ安全且容易ナルノミナラズ經濟的ニモ有利ナリ。

更ニ又新南群島ニ水上機基地トシテノ着水、給油、無線等ノ諸設備ヲ施シ之ヲ純商業的定期航空輸送事業ノ寄航地トナスコトハ新南群島ニ對スル本邦領土トシテノ實效的占有條件ヲ益々強化スルコトトナリ本群島歸屬問題ニ關スル對佛交渉ヲ有利ニ導クニ適切ナル處置ナリト信ズ。

一、新南群島ニ左記諸項ニ關スル調査隊ヲ派遣シ具體的ニ水上機基地ヲ整備スルコト

一、特定水上基地ノ選定

二、氣象調査

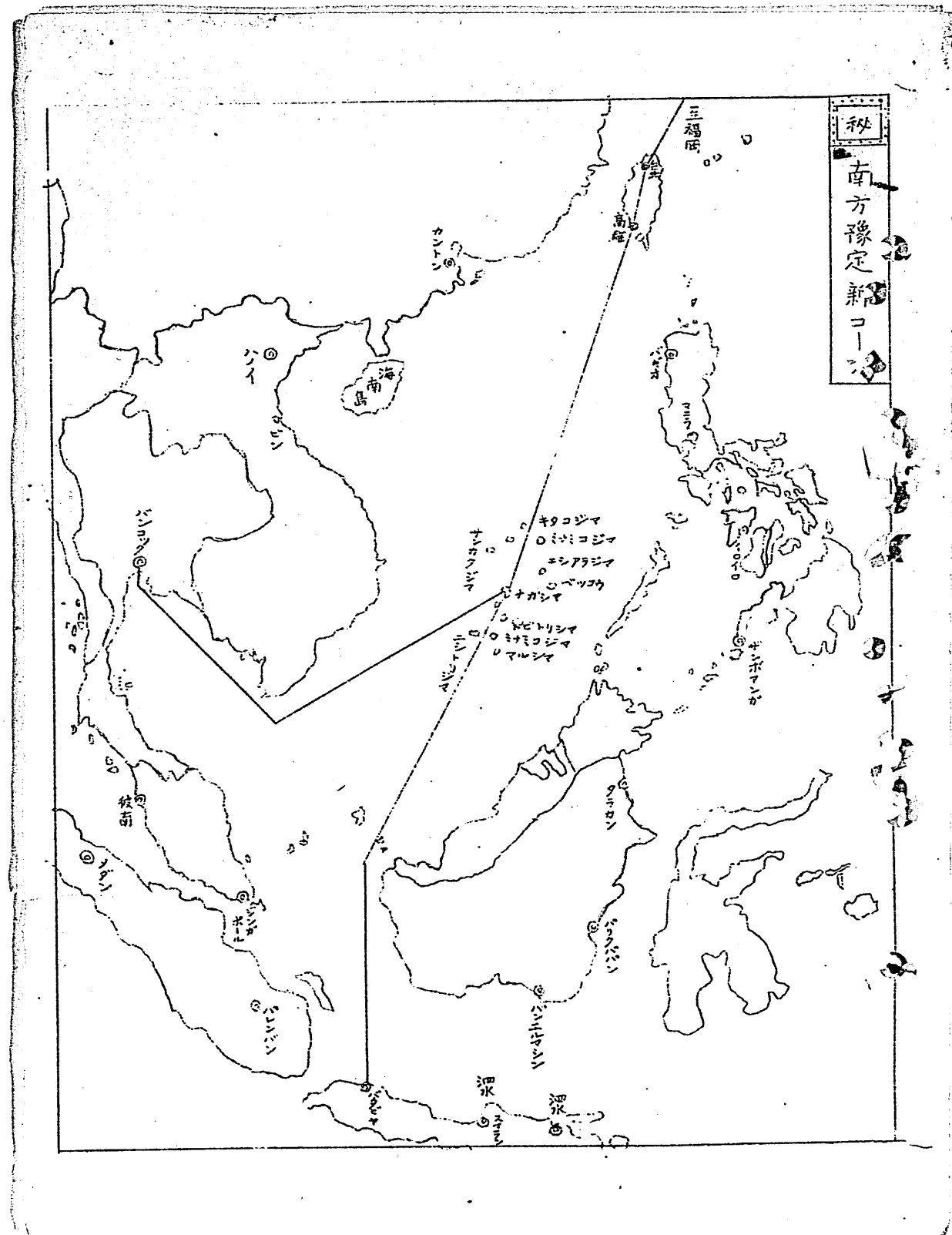
三、着水場設備

四、給油施設

五、無線設備

二、高雄港ハ水上機基地トシテ天然ノ良港ナルモ之ニ對シ具體的調査ト施設ヲナスコト

三、横濱高雄間ノ途中着水場ヲ福岡ト鹿児島ノ何レカニ決定スルコト



REEL No. A-0449

0450

アジア歴史資料センター